

B-1 単元計画・評価計画

- 第一次 タンギングや息づかいに気をつけて美しい音色で演奏しよう・・・1時間
- 第二次 音符の長さを変えて曲の雰囲気を変化させよう・・・・・・・・・・1時間（本時）
- 第三次 互いの音を聴いてバランスに気をつけ美しい響きを作ろう・・・・1時間
- 第四次 曲想に合わせていろいろな奏法を身につけ、ペアで合わせよう・・・2時間

次	学習活動（○）と 主な思考の流れ（・）	指導と評価方法 (※Cの生徒への手だて、☆活用力)	評価の観点			
			①	②	③	④
第一次	○アルトリコーダーの構造と名称 及び種類と音域	・いろいろな大きさの楽器の音を出しながらリコーダーへの関心を高める				
	美しい音色で演奏するには、どうすれば良いのだろうか					
第1時	○美しい音色をつくるためにどうすればよいか試してみよう ・「息づかいに注意しなければならない」 ・「タンギングに気をつけなければならない」	・自分の音や相手の音が聞こえるように、グループで相談や練習をさせる ----- 活用力 ----- ☆美しい音色を出すために自らの音を聴きながら、工夫して演奏している (思考力)				
	○美しい音色で演奏するためには、どんなことに気をつけなければならないと思いますか ・「息づかいやタンギングや運指に気をつけなければならない」	・生徒の意見をデフォルメして、美しい例と美しくない例をわかりやすく範奏し、美しい音色のイメージを意識させる ・タンギングと息づかいが重要であることを理解させる				
	○タンギングの練習をしよう ①リコーダーなしで「tu」と発音する ②ミの音で「tu」と発音する ③細かいリズムでも練習する ○タンギングに合わせて、指を素早く動かそう ①練習1を演奏しよう ②練習2を演奏しよう	・拡大された運指表を提示する ・タンギングと運指のタイミングを合わせるよう指導する ----- 評価規準 ----- ・息づかいやタンギングに注意して美しい音色で吹こうとしている <評価方法> 観察・ワークシート ※デフォルメして、イメージ化させる				○
	美しい音色で演奏するには、タンギングや息づかいに気をつけると良い					

次	学習活動（○）と 主な思考の流れ（・）	指導と評価方法 （※Cの生徒への手だて、☆活用力）	評価の観点			
			①	②	③	④
第二次	○美しい音色で、先生の範奏に合わせて演奏しよう ・「タンギングと息づかいに気をつけて演奏するのだったな」	・拡大された運指表を提示する ・美しい例とそうでない例をデフォルメして、美しい音色を確認させる ・2小節程度の基礎練習のパターンを範奏し、運指に注目させる				
	○運指表を示した順番に音を出そう ・「この曲は『喜びの歌』だ」	・運指表の音を『喜びの歌』の順に指示する				
第1時	音の長さを変えると、どんな効果があるのだろうか					
（本時）	○2種類の『喜びの歌』を聴いてみよう ・「最初の方は滑らかな感じがした」 ・「二番目は音の長さが短かった」	・ポルタート奏法とノンレガート奏法の違いに着目させる				
	○2種類の奏法で『喜びの歌』を練習してみよう ・「長い音で演奏すると曲の雰囲気が柔らかく感じる」 ・「短い音で演奏すると曲の雰囲気が生き生きした感じに変わる」 ・「短い音は乱暴になりやすい」	・デフォルメして2つの違いがわかりやすいようにする ----- 活用力 ----- ☆奏法を変化させ、きれいな音色で演奏できるように工夫している（判断力）				
	○『かっこう』のA1のパートの練習をしよう ・「階名がわからない」	・階名を書いた拡大譜を提示する ・運指は左手だけで、既習のド～ソだけで練習できることを知らせる				
	○音の長さを変化させて『かっこう』を演奏してみよう ・「最初の部分は短い音の方が雰囲気にあっている」 ・「最後の部分は長い音で吹いた方が良いのかな」	----- 評価規準 ----- ・音の長さを変化させて、曲想を工夫している <評価方法> 観察・ワークシート ※デフォルメした範奏を行い、どの部分で変化させると良いか考えさせる				○
	音の長さを変えると、滑らかになったり生き生きしたり、曲の雰囲気が変化した					

次	学習活動（○）と 主な思考の流れ（・）	指導と評価方法 （※Cの生徒への手だて、☆活用力）	評価の観点			
			①	②	③	④
第三次 第1時	<p>○先生の範奏に続いて、基礎練習に取り組もう ・「よく見ていないとわからない」</p> <p>○『かっこう』のA1のパートの演奏をしよう ・「前は2種類の奏法で演奏した」</p> <p>○『かっこう』のA2のパートの演奏をしよう ・「今度はメロディーだけではない」</p>	<p>・拡大された運指表を提示する</p> <p>・基礎練習のパターンを変えて、音に対する注意力を高めさせる</p> <p>・階名を書いた拡大譜を提示する</p> <p>・ポルタート奏法とノンレガート奏法を思い出させる</p> <p>・階名を書いた拡大譜を提示する</p> <p>・途中2小節休む部分では、6拍間休むように指示する</p>				
<p>どんなことに気をつければ、美しい響きを作れるのだろうか</p>						
	<p>○『かっこう』を合わせてみよう ・「みんなで合わせるとよく聴き取れない」</p> <p>○美しい響きの『かっこう』を聴いてみよう ・「きれいな音色で演奏していた」</p> <p>○『かっこう』をペアで練習して、2人の響きを合わせよう ・「A2の休む部分でずれてしまう」 ・「バランスが悪いと響きが合っていないように聞こえる」 ・「響きを合わせるためにはきれいな音で演奏しなければならない」 ・「お互いの音をよく聴かないと美しい響きを作れない」</p> <p>○美しい響きで演奏しよう ・「美しい響きで演奏できた」</p>	<p>・最初の2小節間はノンレガート奏法で、3小節目からはポルタート奏法で演奏させる</p> <p>・範奏用CDを聴き、美しい響きを意識させる</p> <p>・静かに聴くように鑑賞マナーの確認をする</p> <p>・ペア同士に座席を並び変え、練習しやすくさせる</p> <p style="text-align: center;">————— 評価規準 —————</p> <p>・相手と合わせながら、美しい響きを聴き取っている <評価方法> 観察・ワークシート</p> <p>※机間指導しながらハーモニーの範奏をして、揃った響きを感じさせる</p> <p>・響きに注目して演奏させるように課題の再確認をする</p>				○
<p>美しい響きを作るためには、 互いの音をよく聴きながらバランスに気をつけて演奏すると良い</p>						

次	学習活動（○）と 主な思考の流れ（・）	指導と評価方法 （※Cの生徒への手だて、☆活用力）	評価の観点			
			①	②	③	④
第四次 第1時	<p>○先生の範奏に続いて、基礎練習に取り組もう</p> <p>・「後向きで吹くので、よく聞いていないとわからなくなるぞ」</p> <p>○『喜びの歌』と『かっこう』の復習をしよう</p> <p>・「2種類の奏法があった」</p> <p>・「ハーモニーがきれいだった」</p>	<p>・生徒の様子を見ながらわざと後向きで演奏し、運指を見せないことでA Rの音に集中させる</p> <p>・タンギングに気をつけて、音の長さについて意識させる</p> <p>・互いのバランスに気をつけて、きれいな音色で演奏させる</p>				
	『聖者の行進』の演奏ではどんなことに気をつければ良いのだろうか					
	<p>○『聖者の行進』のそれぞれのパートを練習してみよう</p> <p>・「A1の後半が難しい」</p> <p>・「A2の遅れて入るのが難しい」</p> <p>○『聖者の行進』をペアで練習しよう</p> <p>・「楽譜通りに演奏することが難しい」</p> <p>・「相手の演奏に合わせて、自分が入るタイミングが難しい」</p> <p>・「音が短いので、きれいな音色で演奏するのが難しい」</p> <p>・「後半の部分でハーモニーを意識して演奏することができた」</p> <p>・A1「遅れてスタートをして、ドミファソドミファソと繰り返す部分が難しい」</p> <p>・A2「1拍休んで、ファーミレの部分のリズムやタイミングが難しい」</p>	<p>・階名を書いた拡大譜を提示する</p> <p>・CDを聴いて、曲の全体像を掴ませる</p> <p>・A1とA2のパートの範奏を行い、演奏の見通しを立てさせる</p> <p>・【美しい音】【音の長さ】【バランス】について学んだことを押さえる</p> <p>・ペア同士に座席を並び変え、練習しやすくする</p> <p style="text-align: center;">----- 活用力 -----</p> <p style="text-align: center;">☆相手の演奏を聴いて、音の長さやハーモニーを意識しながら、自分の演奏をする（表現力）</p> <p style="text-align: center;">----- 評価規準 -----</p> <p>・互いの演奏を聴きながら、曲想に合わせて、音の長さやハーモニーを工夫している</p> <p><評価方法> 観察・ワークシート</p> <p>※躓いている部分について机間指導をして範奏する</p>				○
	『聖者の行進』では音の長さやハーモニーを工夫して演奏すると良い					

次	学習活動 (○) と 主な思考の流れ (・)	指導と評価方法 (※Cの生徒への手だて、☆活用力)	評価の観点			
			①	②	③	④
第四次	<p>○『聖者の行進』のそれぞれのパートを練習してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A1「ドミファソドミファソと繰り返す部分が難しい」 ・A2「1拍休んで、ファーミレの部分が難しい」 	<ul style="list-style-type: none"> ・パート毎に演奏することで、自分のできていない部分や間違いについて気づかせる ・ピアノ伴奏や言葉かけを行うことで、休符の後の入りのタイミングを明確に表す 				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 音の長さやハーモニーに気をつけて演奏するには、 どんな奏法で演奏すると美しくなるのだろうか </div>					
第2時	<p>○『聖者の行進』を練習しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「2種類のタンギングを工夫して演奏しよう」 ・「相手とバランスを取りながら演奏しよう」 ・「相手とのハーモニーを感じながら演奏しよう」 ・「運指とタンギングのタイミングを合わせて演奏しよう」 ・「美しい音で演奏しよう」 <p>○『聖者の行進』を発表しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私たちのペアは◇◇について、注意しながら練習しました」 ・「このポイントについて、聴けばいいのだな」 ・「前半の部分はノンレガート奏法で演奏すると良いな」 ・「前半の部分はきれいに演奏しなければならない」 ・「後半の部分はポルタート奏法で演奏するとバランス良く聞こえるな」 ・「後半の部分はハーモニーを意識して演奏しなければならない」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア同士に座席を並び変え、練習しやすくする ・前時までの既習事項について、デフォルメして生徒にわかりやすく示して、ポイントを絞らせる <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">活用力</p> <p>☆相手の演奏を聴きながら、既習事項に気をつけて、演奏をすることができる (表現力)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">評価規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半はタンギングに気をつけ、後半はお互いのバランスに気をつけて演奏している <p style="text-align: center;"><評価方法> 発表・観察</p> </div> <p>※各グループの良かった部分と改善点についてを発表用ワークシートにコメントして伝える</p>			○	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 『聖者の行進』では、タンギングに気をつけながら音の長さに注意し、 バランスを考えながらハーモニーに気をつけて演奏すると美しくなる </div>						